

松 風

福島県公立学校退職校長会

- 副会長からの提言…………… 1
 高等学校教育の現在、随想…………… 2
 支部活動の活性化のために…………… 3
 趣味と生きがい…………… 4
 令和8年度「寿詞・賀寿・賀詞」該当会員
 令和7年度支部長会報告…………… 5
 特色あるクラブ活動、県大会のお知らせ… 6

〒960-8107 福島市浜田町4-16 富士ビル2階
 TEL (024) 534-5411
 FAX (024) 531-1195

副会長からの提言

学校現場に役立つ活動を



副会長
蓬田 吉穂

昨年度、地元中学校の校長先生に請われて新採用後補充として数学の授業を、年間十数日行いました。長らく授業を行っていないので、始めは楽しみ半分・不安半分でしたが、同じ支部の会員である音楽のK先生と一緒に勤めることができ、心強く、充実した時間を過ごすことができました。デジタル教科書やタブレットを使った授業は初めてで、なかなか効果的に使えないことが多く、旧態依然の授業ばかりになってしまいました。デジタル教科書の視覚的・聴覚的に分かりやすい授業づくりができる等の良さや書く活動が少なくなる等の課題も実感しました。

つからず、苦勞されていることを聞きました。講師を引き受けたことに感謝されましたが、このようなケースこそ退職校長会の出番かと思えます。不規則な勤務の講師や支援員等は応募する人が少なく、学校の人手不足につながっています。学校が必要とする人員を、退職校長会会員の方々のみならず、豊富な人脈を活かして探し、困っている学校につないでいければと思います。

理解を深めていければと思います。

持続可能な組織へ

副会長
須田 元大

今年度の正月、昨年末全会員に配付された「六十一年のあゆみ」にじっくりと目を通しました。創立の理念を受けて、多くの先輩方が断続の努力で組織を運営されてきたこと、特に震災・原発事故とコロナ禍という未曾有の災禍に対して知恵を出し合い、試行錯誤しながら乗り越えてこられたことが誌面から伝わり、本会の継続と発展に向けて意欲を新たにしたいところです。

さて、こうして歴史を重ねてきた本会ですが、今も急激な社会の変化にさらされています。特に少子化は、私たちに大きな影響を及ぼしています。子供が減り学校が減れば校長の数も当然減っていきます。本会の会員数も減少傾向にあります。さらに、役職定年制に伴う一時的な新入会員の減少、また価値観の変化による加入率の低下、それらは必然的に会員の高齢化を招いています。さらに急激な物価高騰による事業運営の難しさ等が追い打ちをかけ、ほぼ全ての支部が、今後の運営に不安を抱えているのではないのでしょうか。

東北地区では役員のなり手不足等から青森県が東北協議会を退会し、全国に目をやれば同じように組織や事業に課題を抱えている支部が増えていくようです。今こそ私たちは、本会の設立当初の理念を尊重しつつ、この困難な時代にあっても、持続可能な組織や事業を確立していかなければなりません。そのためには会員一人一人が、自らの支部の課題と向き合い知恵を出し合うことが必要です。その成果を、他の支部が参考にして改善を図っていく。その広がり「会員相互の親睦」「本県及び我が国の教育の向上」という本会の目的達成につながっていくのではないかと思います。

高等学校をめぐる環境は大きく変化しつつあります。

第一に、急激な少子化の進行による生徒数減少と学校の再編整備です。この十年の間に県立高校（全日制・定時制）の生徒数は約四万三千人から約三万一千人へと約一万二千人も減少し、高校数は九十四校から七十七校（双葉郡の休校五校を含む）となり、令和八年度にはさらに二校減りま

す。生徒数の減少は高校入試の倍率低下、教育活動の縮小につながっています。

第二に、現在進められている高校授業料無償化です。このことは、高等学校に大きな影響を与え、教育環境に大きな変化をもたらしつつあります。生徒、保護者の選択肢が増えることは良いのですが、一方で、各地域における唯一の高校や地域産業を支えてきた専門高校等の衰退につながることもないようになければなりません。

第二に、現在進められている高校授業料無償化です。このことは、高等学校に大きな影響を与え、教育環境に大きな変化をもたらしつつあります。生徒、保護者の選択肢が増えることは良いのですが、一方で、各地域における唯一の高校や地域産業を支えてきた専門高校等の衰退につながることもないようになければなりません。

以上二つの大きな変化

寄稿

高等学校教育の現在

福島県高等学校長協会

会長 丹野 純 一



高校が統合し、「いわき商業情報高等学校」となっています。商業科ではマーケティング、ビジネス情報、会計、分野の専門知識を身につけさせ、本県初の情報科では、情報システム、コンテンツ分野の専門教育を通して、新しいデジタル社会の担い手教育を実践します。

この他、県内十四校がDXハイスクールに指定され、デジタル等成長分野を支える人材育成を推進しています。また、普通科のコース制も定着し、教育コース設置八校では、教員を目標とする生徒による小学校訪問、福島大学附属中学校の研究参加、福島大学の職業課程の先行履修、指導案作成・模擬授業実施などの取組を進め、教員を志す生徒の、教育に対する職業観、進路意識を醸成しています。

以上のように、時代の変化に対応し、各校で様々な取組を進めており、今後も魅力ある学校づくりを推進してまいります。

※本校＝福島高校

随想

六十四歳の惑い



福島支部
加藤 知道

定年退職から四年が過ぎようとしています。退職したら、穏やかに本を読み、囲碁の棋譜を並べ、電子ピアノを買って練習して等々、そんなことを考えていました。が、そんな生活はかけらもありません。

夕方の家事が増えました。妻が中心にやっていたことですが、「あ、俺がやればいいのか」と気が付いてしまいました。仕事は週三日の非常勤ですが、基本的に夕方四時までの勤務なので、五時前には家に帰り、家事ができます。今では、妻の勤務日（火・金）は私、週末から月曜日は妻、という家事分担の基本形ができあがりました。

退職から一年が過ぎる頃、母が脳梗塞で入院し

ました。幸い、日常生活は自分でできるまでに回復しましたが、運転免許は返納しました。更に一年間のうちに二度の入院を経験。また、父には肺癌が見つかりました。通院等の回数はどんどん増え、付き添う家族の調整も大変です。九十二歳と八十八歳の衰えは日々加速度的に進み、同居故の悩みもつきません。

時間のやり繰りが大変になってきているのは、地域の役割が増えたことも大きな要因です。町内会役員、中山間地域集落代表などの他、一人世帯向けの通院等を支援する「小さな交通を考える会」にも関わっています。休耕地の刈り払いや、地域の集団作業、ゴミ集積場の管理等に加え、山林・竹林の管理も日常です。

現役時代より忙しい！これが正直な実感です。ゆったりした日々はいつ訪れるのだろう。そう思うのですが、休んでも落ち着かず、あれやこれやと動いています。貧乏性ですね。

支部の活性化を図るために

伊達支部

本支部の主な活動は方部ごとの懇談会、俳句・囲碁・ゴルフのクラブ活動、会報誌「伊達の松風」発行、地教委への要望活動等です。

支部活動の活性化を図りながら会員の期待に沿った新たな活動や取組を創造していくことが長期的な支部の課題となっております。短期的には会員数減・予算縮小に伴う経費削減、新会員加入への働きかけ、県大会開催に向けた準備等です。

支部事業を継続しつつ支部の活性化を図るためには、現職校長との連携を強化することが重要と考えます。学校現場は教員の多忙化、いじめ・不登校、保護者対応、教員不足等々、様々な課題に直面しております。今こそ、学校現場の応援団として退職校長の出番と捉えます。我々の経験を生かした実践的な助言、学校経営の伝授、講師等の人材としての支援等々、学校課題解決のために現職校長との距離を縮め、ともに

子供たちの未来の自立に向けて協同できればと考えます。ひいては退職校長会の魅力を高め、会員の所属満足感の維持、新入会員加入へと好影響も期待されます。

(副支部長 高橋 孝)

郡山支部

本支部の事業計画の活動方針の第一番目に、「会員相互の交流と親睦」を掲げている。

コロナ後、会員の笑顔が見える研修と現役世代との気軽な交流の場を重点的に取り上げ、大切に活動している。

まず会員研修では、これまでの講演会形式を見直し、会員が気軽に集まり、相互に楽しめるように、との考えから、昨年度は地元出身の落語家による「江戸落語（人情噺・滑稽噺）」を楽しく鑑賞し、今年度はやはり地元で活躍する語り部から、昔話を交えながら語り部になったきっかけやボランティア活動の話をし

ていただき、とても満足した。

また、現役世代との交流では、退職会員との混合グループで意見交換した。

不登校児童・生徒への支援や保護者の過剰なクレーム対応、働き方改革への取組など、熱気ある充実した話し合いの時間になった。

いずれの取組も好評で、このような期待感ある時間を共有することの大切さを強く感じた。

今後も、楽しく魅力を感じてもらえるような企画で、希薄になった関係性の「結いなおし」に努めていきたい。

(副支部長 皆川 晃)

東白川支部

1 現状と課題

当支部は、令和七年度会員五十五名、新会員無、平均年齢は七十五・六歳、会員は高齢化と減少傾向にあります。

2 支部の活性化のために

当支部として支部の活性化及び地域貢献活動として取り組んでいるのが「学校等支援ボランティアバンク」です。この活動は、それまでも支部として学校等

の支援活動を行っていましたが、より学校等の願いに応じる体制の構築について検討が加えられ、平成二十一年に学校等の要請と会員の技術・能力をマッチングするボランティアバンクが設立されました。発足当初から積極的な取組が展開され、その時期の会員の特技や技術に応じて支援を行ってきました。最近では、郡内小学校における学習支援や算数検定の試験協力、放課後児童クラブにおける学習指導及び伝承遊びの指導、公民館における夏季休業中の小・中学生に対する学習指導、そして各種コンクールの審査などを行っており、地域の先生方や関係の皆さんから感謝いただいています。どの会員も「子供たちのために」と、意欲的に活動しています。

(庶務 永山 陽二)

相馬支部

1 現状と課題

現状から見える課題は、個人の考えや生活様式の多様化によるものが大きく、次のようなものである。

・定年延長に伴い、役職定年後すぐに退職校長会に

入会しようという考えがなくなり、学校教育に関わる仕事を退職してから入会するかどうか決めたいて考えている現職校長が多い。

・退職後も組織の一員として活動することへの抵抗感を感じ、負担感から役員になりたがらない。

・仕事を抱え、支部総会も含めて支部の活動への参加者が年々減少している。

2 支部の活性化のために
特に有効な改善策はないが、次のような取組を今後進めていきたい。

・現職校長も含めて、クラブ活動等、退職校長会の活動を広報で紹介し、生きがいづくり、仲間づくりに結びつけていく。

・県の事業（「十七字のふれあい事業」等）への審査協力等を通して顔を合わせる機会を増やしていく。

・組織を維持していくために、直接訪問による新入会員の勧誘活動、そして何よりも活動のスリム化による負担感の軽減に取り組む。

(庶務 午來 勝頭)

趣味と生きがい

マーチング指導、再び



岩瀬支部
善方 威浩

現役時代、私は須賀川市立第一小学校で特設マーチングバンド部の指導に携わっていました。他の校務もこなしながらの忙しい毎日でしたが、素人ながら音楽と向き合い、子供たちと同じ目標に向かって努力する経験は、私の原動力でもありました。

ところが、令和五年にその活動が「須賀川アカデミックマーチングバンド」として学校から地域に移行され、再びその指導に関わる機会を得ました。当時の子供たちが立派に成長し、今では保護者として活動を支えている姿を見ると、時の流れとともに、自分のあゆみが小さいながら確かにつながっていることを感じて、うれしくなりました。体は昔のように動かなく

なりましたが、子供たちには演奏や動きの技術だけではなく、あいさつや返事をする、目標に向かってがんばる気持ちや仲間を思いやる心の大切さを伝えることを心がけています。最初は集中力が続かなかった子供たちが、練習を重ねるうちに、一つの音、一つの動きに意識を向け、成長していく姿を見ると、大きな喜びとやりがいを感じます。今年は念願の全国大会出場を果たしました。

マーチングバンドの指導という今の活動は、退職後の私に新たな役割と生きがいを与えてくれています。

菊作りと菊仲間



北会津支部
杉原 武

今年の菊作りを振り返ると、大菊三本仕立てが五十鉢、ダルマ菊が二十鉢、福助菊が三十鉢、ドーム菊が

五十鉢、中多輪菊が一鉢と、約百五十鉢の菊を育てた。

そして、日本菊花全国大会をはじめ、二本松菊花展、会津美里町法用寺菊花展、喜多方菊花展に出品し、何鉢か入賞させて頂いた。



令和7年喜多方菊花展、市長賞を受賞

これほど菊作りにハマったのは、三年前にユニチューブで知り合った喜多方の渡辺さんとの出会いからである。渡辺さんは喜多方菊花愛好会会長を務めながら、腐葉土作り、培養土作り、挿し芽、鉢上げ、定植、肥料、消毒について、ご自分の作業を動画にして発信されている。私も四十年ほど菊作りをしているが、その動画を見た時、目

から鱗が落ちるくらい感動した。その後、私も喜多方菊花愛好会の仲間に入れてもらい、活動に参加している。

菊作りを続けていたおかげで、仲間が増え、新たな目標ができるなど、毎日がとても充実している。これからも健康に留意し、菊作りに取り組んでいきたい。

四つの楽しみ



双葉支部
庄野富士男

私の一日は朝コップ一杯の水(酒ではない)を飲み、歌の一節を声に出すことから始まります。

退職後、下手の横好きで合唱・ピアノ・水泳・ゴルフを始めました。

合唱は楽譜が読めない、音域が不明、声が出ないなどの状態からのスタートです(正にトホホです)。諦めず途中で止めなかったおかげで郡山新春の第九演奏会には十年以上参加しました。現在はその余勢を駆っ

て、モーツァルトのレクイエム(永遠の安息)に挑戦中です。震災後十五年経過した令和八年三月には、N響いわき定期演奏会が沖澤のどか指揮でいわきアリーナで開催されます。ラテン語での暗譜による合唱なので、一年前から練習しています。

ピアノについては、ある日突然意を決して妻と一緒に習い始めました。発表会の時は緊張の中での行動なのでいつも失敗しますが収穫もあります。今後は駅ピアノや街角ピアノにも挑みます(勿論冗談です)。

水泳は一日一時間を日課としています。目標は二百メートル個人メドレーですがターンが課題です。

ゴルフは毎回楽しく一日を過ごしています。七十五歳で年間七十五日プレーのエイジラウンドを経験し満足しています。

この四つができることは、日々の楽しみ、喜びです。

これからも歌う・弾く・泳ぐ・歩くことを楽しんでいきたいと思っています。

令和八年度
「寿詞・賀寿・賀詞」
該当会員名簿

一 「寿詞」(満百歳)

大正十五年四月二日
昭和二年四月一日生まれ

1 西白河 松本 武夫様
2 田村 本田 忠治様
3 北会津 浅沼 恒昭様

二 「賀寿」(満九十五歳)

昭和六年四月二日
昭和七年四月一日生まれ

1 福島 石井 健雄様
2 南会津 堀金 保男様
3 双葉 石井 宏様
4 いわき 須藤 泰将様
5 いわき 高橋 郁雄様
6 相馬 涌井 幸雄様
7 石川 木田 達男様
8 いわき 田中 晃様
9 岩瀬 斎藤 利雄様
10 郡山 高橋 榮秋様
11 相馬 佐藤 老松様
12 いわき 草野 武文様
13 いわき 高木 清様
14 福島 遠藤 幸吉様
15 いわき 根本 晋一様
16 いわき 高橋 眞次様
17 いわき 高橋 彦士様
18 いわき 鈴木 亀郎様
19 相馬 佐久間 貞良様

三 「賀詞」(満八十八歳)

昭和十三年四月二日
昭和十四年四月一日生まれ

20 郡山 佐藤 光代様
21 福島 小室 昭様
22 岩瀬 猪越 孝義様
23 安達 大竹 秀雄様
24 福島 橋 浩二郎様
25 双葉 今野 末治様

1 安達 服部 覺悟様
2 福島 根本 光造様
3 北会津 星野 重道様
4 福島 上竹 洋行様
5 西白河 佐藤 博治様
6 相馬 井上 精三様
7 北会津 太田 悦子様
8 郡山 佐藤 武彦様
9 郡山 柳沼 秀雄様
10 いわき 加澤 裕三様
11 南会津 荒川 俊一様
12 東白川 添田 雅教様
13 安達 佐藤 正之様
14 福島 丹治 庸一様
15 郡山 塙 繁様
16 田村 鈴木 誠様
17 郡山 阿部 信幸様
18 郡山 八代 育郎様
19 北会津 吉田 信様

51 安達 佐藤 邦英様 (令和八年一月二十日現在)
50 いわき 草野 雄一様
49 西白河 高和 靖様
48 福島 川上 一男様
47 耶麻 小林 正守様
46 郡山 石塚 達郎様
45 西白河 武藤 宏様
44 北会津 小林 清様
43 西白河 石井 満様
42 郡山 大石 隆俊様
41 郡山 富永 孝夫様
40 岩瀬 柴山 進様
39 福島 丹野 功一様
38 耶麻 佐藤 定男様
37 いわき 大平 隼夫様
36 安達 伊藤 正様
35 相馬 青木 紀男様
34 いわき 猪狩 政行様
33 岩瀬 佐久間 健様
32 郡山 中東 稔様
31 郡山 西勝 文夫様
30 郡山 鈴木 隆一様
29 両沼 小林 政昭様
28 田村 佐久間 眞様
27 伊達 田中 吉明様
26 福島 小針 征次様
25 福島 計良 忠夫様
24 福島 斎藤 一哉様
23 伊達 鈴木 絢子様
22 郡山 田中 誠様
21 いわき 坂本 達夫様
20 双葉 草野 巍久様

令和七年度
支部長会報告

令和七年十一月十四日
(金)、令和七年度支部長会
が、福島市吾妻学習セン
ターで開催された。今回は
支部長会と研修会(情報交
換)を行った。



支部長会の様子

◇支部長会

○報告

・第五十九回福島県公立学
校退職校長会会津大会、
第五十一回東北地区退職
校長協議会山形大会
・令和七年度の事業実施状
況、新入会員数及び会員
数、会費納入状況及び会
計中間報告、デジタル化
推進支部補助金、慶弔関
係、令和七年度教育懇談
会と要望書

○協議

・第六十回福島県公立学校



グループ協議の様子

退職校長西白河大会(大
会宣言案、体験発表支部
等)
・令和八年度活動の重点目
標、予算編成方針・予算、
要望活動方針、教育懇談
会実施要項

◇研修会(情報交換)

○報告と提案

事務局から「退職・役職
定年者と未加入会員への
勧誘活動等調査結果」の
報告があり、次いで「今
後の県大会の在り方」に
ついて提案がなされた。

○グループ協議

四つのグループに分か
れ、「退職・役職定年者
と未加入会員への勧誘活
動」「今後の県大会の在
り方」「支部活動の活性
化のための支部活動のあ
り方」について、熱心に
情報交換を行った。

特色あるクラブ活動

文化財巡り

石川支部

当支部にはクラブ活動の一つに文化財クラブがあり、年に一度郡内外の文化財巡りを実施する。参加者はクラブ員のほぼ半数の八名前後で、クラブ員の乗用車二台に分乗し、史跡・社寺仏閣・資料館等、昼食を挟んで五・六箇所を巡る。

講師は、クラブ員の中で文化財に造詣の深い方や施設の担当者。長い歴史を刻んできた諸文化財に対峙し、その荘厳さに畏敬の念を抱き、保存継承して来た人たちの偉大さや苦勞に感服。今年度は八名で、前浅川



共楽亭の広場にて (南湖をバックに)

町文化財委員長奥貫四郎様を講師として、白河市を巡った。途中棚倉町逆川地内棚倉城跡のお堀の水の取水堰社川三分分水堰を見学。白河市では藩主松平定信ゆかりの南湖神社を参拝。茶室松風亭蘿月庵と共楽亭に歴史の重みを感じ、戊辰戦争白河口の激戦地稲荷山で戦死した三百数十名の奥州列藩同盟軍の鎮魂碑及び市内中心部の長寿院内に眠る新政府軍の墓に黙祷。明治天皇が東北巡行の折宿泊した白河宿旧脇本陣柳屋に入室。感慨に浸る。城下町白河のシンボル小峰城は、最大規模の櫓門「清水門」を復元中。実に壮大なり。充実感に溢れ、無事終了。(文化財クラブ 蛭田重経)

小さな旅、楽しみませんか

耶麻支部

「近くの史跡や旧跡、景勝地などを見たい」「隣街のイベントに参加してみたい」「身近な所への日帰り旅行を楽しみたい」等々の希望を持つ会員が集まって

立ち上げたのが「大人の遠足クラブ」です。会は「会員の懇親を深め、健康増進を図る」ことを目的とし、これまで(主なもの)「旧日中線枝垂れ桜ウォーク」「奥只見湖遊覧と清津峡見学」や「百万年前の会津へタイムトラベル」等の活動をしてきました。



旧日中線枝垂れ桜ウォーク

活動はバラエティに富んでいて、しかもとてもユニークです。これらは全て会員からの発案や希望をもとに計画、実施したものです。それだけに今後のためにも記録をしっかり残しておくように心がけています。高齢者が多いので、実施にあたっては「普段の運動不足を解消し体力の維持・向上を図るような、ウォーキングや草花鑑賞等、自然

と触れ合う活動を多く取り入れる」ように配慮していただきます。勿論、会員の健康状態や熱中症、クマ等への注意は欠かせません。(大人の遠足クラブ 大堀 淨一)

県大会のお知らせ

第六十回福島県公立学校退職校長会白河大会の開催について

▽主催

・福島県公立学校退職校長会

▽後援

・白河市教育委員会

・福島県市町村教育委員会

・連絡協議会石川支部、西白河支部、東白川支部

▽主管

・福島県公立学校退職校長会 西白河支部

▽大会

・一期 日

・令和八年六月九日(火)

二会場

・シン鹿島

(旧鹿島ガーデンプライ)

住所 白河市北中川原五五

電話(〇二四八)

二一七五四〇

三日 日程

・受付 十時

・開会式 十時三十分

・講演 十一時二十分

・演題 「小峰城跡の整備」

講師 鈴木 功氏

(白河市建設部文化財課)

・昼食・懇談

・十二時二十分

・体験発表

・十三時二十分

・安達支部、北会津支部、相馬支部

・大会宣言

・四会 費 千五百円

・五 参加人数

・百九十人程度

編集後記

今回の「松風」第一九八号では、多くの支部の考えや意見などを掲載しました。会員の減少や支部財政の現状を踏まえ、それぞれの支部内で意見交換や情報交換を積極的に行い、持続可能な組織体としてより良い活動や運営を目指したいものです。